



社會政策學院概要

學院長 協理理事 鹽澤昌貞

財団法人協同會は正八年末創立後、同會の主要なる事業の一として教育的に社會政策一般に徹底せしむる爲、翌九三年三月本院院の前身たる社會政策講習所を設立し「社會政策を研究せんとし又は社會施設の實務に當らしむる者」を養成する目的を掲げて、同年四月十二日より神戸市東灘区東京工科學校内に於て第一回講習を開始した。其の後大正二十年七月芝公園第二十四號地に移し同九月より第四回講習を開始し、大正二十二年三月協同會館の新築落成に及び同館内に移し、社會政策學院と改稱、専ら施設の整備と内容の充實を圖りたる上、同四月より第八回講習を開始した。大正二十三年一月第九回講習よりは蓋聞職務にある者の便宜を考慮し夜間講習と爲したるが、豫期以上の好評を収めたるに於て、爾來概ね夜間講習とし昭和十二年十二月迄に第三十九回の講習を終了するに至り、



論に關し、正確なる知識理解を與へ、以て健全なる判断力を涵養せしむる方針の下に行ひつゝあることとは創立以來變らざる處であり、僅か夜間三ヶ月間の講習と雖も、廣く學界並に實際界に於ける各方面の一流權威によりて社會系の科目を別記の如き総合的な體系に於けるを履修し得られる。斯くの如く社會人が各その實生活に則して勉學し得る權威ある教育機関は他に比類が無い。

修了後の進路 本學院に於ける講習は僅か三ヶ月間に過ぎないが、修了後に於ても亦本院院並に協同會を中心に密接な關係を保ち、殆んどあらゆる方面の事業に於て中堅人士として現に活躍し、ある二千七百を超越する同志が相互に連絡協力を圖るときは、夫々の専門的な職務遂行の上にて、亦社會問題研究の上にて、その便宜を最大なるものとして、次の如き組織を有する外、鋭意この方面の施設を擴充することに努めてゐる。

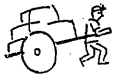
事變と社會政策學院

學院理事 大内經雄

支那事變突發以來將に九月、其の間隙は益々擴大して今や支那大陸の全面を覆ふに至つた。而も政府は何時來つべしと想つつかず政府は遂に長期戦の覚悟を爲しに至つた。本學院はその規模に於てまたその影響に於て前古未曾有のものであるだけに、これによりて惹起される問題は頗る多種多様で而も難澁を極むるものである。軍需及其關係物資の増産擴充と之に伴ふ努力の供給、熟練工の不足、傷兵軍人及後援の社會施設、勞働過重に伴ふ疾病衰弱の類發とその保護預防、國民體位向上諸方策、産業統制と之より生ずる諸問題、平和産業の保護、物價騰貴と各種の社會問題、勞資關係の調整、更には國家總動員法の發動より生ずることあるべき全國家的問題の處理等々皆れば無數である。

社會政策講習會 在東同窓有志を以て組織し、社會政策に關する諸問題の研究發展を遂ぐる目的で毎月一回以上例會を開催し、研究報告の發表、實地見學、専門研究會の諸議議、研究討論等の方法に依て單に講習期間中のみならず、修了後に於ても本學院を中心に社會問題の研究を遂ぐる一の會合として昭和十二年一月設立、會員約五百十名。

- 1. 受講者に対する注意
2. 附記
3. 修了資格
4. 二以上出席者を有資格とす。



物と人との相剋

協同會大内經雄

西洋は物質文明、東洋は精神文明と簡單に片づける考へ方もあるが、西洋の哲學や藝術には及びもつかぬのがあり、東洋は西洋に先立つて鐵針鑿や火藥の發明があつたことを思へば、兩者の區別をさう易々と立てることも危険である。だが極めて大つぱらに見て西洋人と東洋人とでは、物の考へ方、物の受け入れ方に可成りの相違一相違といふ言葉が當らなければ特徴といつても可い。が、

論理辭の満足に特殊の興味を感じ、物質の研究に没頭したことは當然成行で、その結果自然科學の華が爛漫として西洋に咲き誇つたことは決して偶然ではない。

論理辭の満足に特殊の興味を感じ、物質の研究に没頭したことは當然成行で、その結果自然科學の華が爛漫として西洋に咲き誇つたことは決して偶然ではない。

論理辭の満足に特殊の興味を感じ、物質の研究に没頭したことは當然成行で、その結果自然科學の華が爛漫として西洋に咲き誇つたことは決して偶然ではない。

西洋人は機械を發明する素質を多分に持つてゐると同時に、人間及人間社會が機械化された状態に對して比較的平氣ではなないのだらうか。チャップリンの「モダンタイムス」にある自動食糧機は現代文明に對する大きな皮肉であることを大真面目に考へたり、利用したりする傾向が、またその危險性を確かに西洋人にはあるやうな氣がする。物事に對する偏執性といふか、一

西洋人は機械を發明する素質を多分に持つてゐると同時に、人間及人間社會が機械化された状態に對して比較的平氣ではなないのだらうか。チャップリンの「モダンタイムス」にある自動食糧機は現代文明に對する大きな皮肉であることを大真面目に考へたり、利用したりする傾向が、またその危險性を確かに西洋人にはあるやうな氣がする。物事に對する偏執性といふか、一

西洋人は機械を發明する素質を多分に持つてゐると同時に、人間及人間社會が機械化された状態に對して比較的平氣ではなないのだらうか。チャップリンの「モダンタイムス」にある自動食糧機は現代文明に對する大きな皮肉であることを大真面目に考へたり、利用したりする傾向が、またその危險性を確かに西洋人にはあるやうな氣がする。物事に對する偏執性といふか、一

西洋人は機械を發明する素質を多分に持つてゐると同時に、人間及人間社會が機械化された状態に對して比較的平氣ではなないのだらうか。チャップリンの「モダンタイムス」にある自動食糧機は現代文明に對する大きな皮肉であることを大真面目に考へたり、利用したりする傾向が、またその危險性を確かに西洋人にはあるやうな氣がする。物事に對する偏執性といふか、一

西洋人は機械を發明する素質を多分に持つてゐると同時に、人間及人間社會が機械化された状態に對して比較的平氣ではなないのだらうか。チャップリンの「モダンタイムス」にある自動食糧機は現代文明に對する大きな皮肉であることを大真面目に考へたり、利用したりする傾向が、またその危險性を確かに西洋人にはあるやうな氣がする。物事に對する偏執性といふか、一

西洋人は機械を發明する素質を多分に持つてゐると同時に、人間及人間社會が機械化された状態に對して比較的平氣ではなないのだらうか。チャップリンの「モダンタイムス」にある自動食糧機は現代文明に對する大きな皮肉であることを大真面目に考へたり、利用したりする傾向が、またその危險性を確かに西洋人にはあるやうな氣がする。物事に對する偏執性といふか、一

西洋人は機械を發明する素質を多分に持つてゐると同時に、人間及人間社會が機械化された状態に對して比較的平氣ではなないのだらうか。チャップリンの「モダンタイムス」にある自動食糧機は現代文明に對する大きな皮肉であることを大真面目に考へたり、利用したりする傾向が、またその危險性を確かに西洋人にはあるやうな氣がする。物事に對する偏執性といふか、一

西洋人は機械を發明する素質を多分に持つてゐると同時に、人間及人間社會が機械化された状態に對して比較的平氣ではなないのだらうか。チャップリンの「モダンタイムス」にある自動食糧機は現代文明に對する大きな皮肉であることを大真面目に考へたり、利用したりする傾向が、またその危險性を確かに西洋人にはあるやうな氣がする。物事に對する偏執性といふか、一